

Servas Japan Tohoku



支部ニュース

No. 92



1	支部長の新年のあいさつ	1
2	2017 年度支部収決算報告書	2
3	第 40 回（2018 年）日本サーバス国内会議	4
4	受け入れ報告	
	M. S.（仙台）	5
	N. T.（福島）	7
	C.M.・C.N.（福島）	9
5	編集後記	11

TOHOKU

1 支部長の新年のあいさつ

友遠方より来るあり・・・ 2018.1.7 支部長 T.N.

みなさんお元気ですか？昨年 12 月 18 日から 22 日に台湾にツアーの旅行に行きました。私は昨年受験が 4 勝 2 敗でしたが、家内は 1 勝しましたので、二人で新潟発着のモニターツアーに出かけました。30 カ国以上は外国に行っていますが、最近では、7 年ぶりの海外でした。特に我が新潟の会員 O さんに台湾でお会いできるのが楽しみでした。彼は元気で、日本語教師をされていました。台湾での新宿歌舞伎町のようなところの夜市を案内頂き感謝しています。私は来るものは拒まずの精神で、サーバスに接しています。

昨年度は東北では、浪江町の Y さんと南三陸の T さんの両新築のお宅を訪ねることができました。Y さんは、震災時に我が家に一時来られてからのお付き合いです。T さんは私がわかめ小屋を寄贈させていただいたご縁で親交しています。お二人とも家を新築されていたので、気になっていたところでした。新築の家を拝見して、大変元気を頂

きましたが、これからの二つの街づくりには不安を感じました。

さて、今春3月の国内会議は東京のJICAです。今回年末に支部内でのSOL登録の状況を調査しましたが、現在は一名だけです。そこで今年度の支部総会をどうしようかと考えています。白石のTさんのところが予定ですが、いつも人数に限られるので、いっそ今の時代ですからメール会議でもいいかと思えます。ご意見をお寄せください。今月Oさんご紹介のトラベラー会員さんがいて、LOIを発行します。新会員を増やして、楽しい東北支部にしていきましょう。

2 2017年度 サーバス東北支部 収支決算報告書

自 2017年1月1日

至 2017年12月31日

1 収入の部

(単位:円)

科目	本年度決算額	前年度決算額	増減	摘要
1. 前年度繰越金	79,816	91,216	△11,400	
2. 年会費	48,000	51,000	△3,000	
3. 入会金	0	2,000	2,000	
4. 認定料	0	0	0	
5. 会議会合費	6,240	0	6,240	国内会議戻り
6. 寄付金	0	0	0	
7. 雑収入(下記)	0	0	0	
8. 利息	0	0	0	
合計	134,056	144,226	△10,170	

2 支出の部

科目	本年度決算額	前年度決算額	増 減	摘 要
1. 支部拠出金	6,800	7,600	△800	
2. ホストリスト代	0	9,000	△9,000	今年より電子リストに変更
3. 認定料	0	0	0	
4. 事務費(小計)		0		
① 信費	5,224	11,297	6,073	支部ニュース郵送料
② 務用品	4,664	4,518	146	コピー代
③ 通費	0	0	0	
会議会合費				
① 内会議費	0	6,240		仙台
② 部会議費	0	0	0	
③ 費補助金	18,362	25,755	△7,443	T 13005・M 5357
6. 寄付金	0	0	0	
7. 次年度繰越金	99,006	79,816	19,190	
合計	134,056	144,226	△10,170	

3 報告

支部長 ㊟

会計係 ㊟
㊟

4 会計監査

関係書類を照合しましたところ、正確且つ適正に処理されていることを認めます。

会計監査 ㊟

3 第40回（2018年） 日本サーバス国内会議（東京）案内

日本サーバス	会 長	O.T.
日本サーバス	関東支部長	K.M.
日本サーバス	国内会議担当	Y.S.

1. 日時：2018年3月17日(土)

12:15 ～ 受付

12:30 ～ 開会式

12:45 ～ 国内会議（途中休憩含み）18:00 まで

18:00 ～ 20:00 懇親会（4,000円）（同館内 Js Cafe）

3月18日(日) 国内会議（前日からの続き）

9:15 ～ 12:40 会議・写真撮影等

2. 会場: JICA 地球広場 セミナールーム 201 AB

■〒981-0904 東京都新宿区市谷本村町10-5（JICA 市ヶ谷ビル内）

■地球広場のホームページは、<https://www.jica.go.jp/hiroba/index.html>

■交通案内

- ・JR 中央線・総武線 「市ヶ谷」 徒歩10分
- ・東京メトロ有楽町線・都営地下鉄新宿線「市ヶ谷」A1番/4番出口 徒歩10分
- ・東京メトロ有楽町線・南北線「市ヶ谷」6番出口徒歩8分

4. 受け入れ報告

今回の受け入れ報告の中には、トラベラーからの感想なども載せました。この支部ニュースは今後英語に翻訳し、海外のサーバスメンバーにも読んでもらおうと考えています。それにより、東北へ興味を持ってもらい、ますます東北へのサーバストラベラーが増えることを期待しています。

(1) 受け入れ報告

ホスト：M.S.

- トラベラー名：E.K. 61 才 & A.K. 76 才
- 国籍：ポーランド
- 性別・年齢：女性 61 才、男性 76 才
- 受入日：2017 年 9 月 2 日～4 日

2017 年は激しい豪雨が日本列島に度々襲いかかり日本各地で大きな被害が報告されていました。その心配がありましたが E.K. & A.K. の旅は順調に行って、天候に恵まれた仙台の 3 日間でした。

日本政府の発表で 2016 年は 1000 万人以上の外国人が来日していて、2020 年に向けて来日する外国人の数が年々増えて行くようです。 その中には「アニメから覚えたよ!」と日本語を話す若者もテレビでよく見かけます。

我が家に滞在したポーランドのカップルは言語(日本語、英語、ドイツ語、ヘブル語を話す)に興味があり、特に A.K. は日本語が堪能でした。最近ではサーバス・トラベラーの中で日本語を話す人はいますが、A.K. の日本語は別格で次から次と美しい日本語があふれ出て来るのでした。彼は 33 歳の時から日本語の勉強を始めたそうですが、どれだけの努力をして美しい日本語を身につけたのかを考えると敬服してしまいます。

今回が 8 回目の来日で歌舞伎や能などの日本の伝統芸術もすでに観賞していました。英語を話すことが苦手な日本のサーバス会員も A.K. のようなトラベラーが滞在してくれたらどんなに楽しい時間を過ごすことができ、相互理解も深まることでしょう。



近年になってもまだまだ経済の豊かな国でないポーランド、彼らの住む古都・クラクフ市のアパートの 14 階には冷房設備がなく(厳しい冬のため暖房設備は備えてある)、地球温暖化の異常天候が理由なのか、ポーランドも異常な猛暑の日もあり困ってしまうようです。

「昔の貧しさの話」が話題にのった時、私は一つの事を思い出したのです。今から

30年ほど前になりますが、サーバス・国際ニュース紙(SIN)が年間2回発行されていました。サーバス国際本部からSINが航空便で日本に送られてきて、希望する会員に配られました。私はSINが届くのをとても楽しみにしていました。(残念なことです時代の流れでIT化によって航空便での郵送は短期間で中止になってしまいました)ある時、SINの中にポーランド・サーバスからのちいさな印象に残る記事を見つけました。「ポーランドはサーバス活動は続いています。どうぞポーランドに来てください。ただし今ポーランドには食べ物がありません。缶詰でも良いですから食べ物を持ってポーランド来てください...」と書いてありました。

K夫婦からその時代の状況、市場から食べ物が無くなってしまって苦労した様子を話してもらいました。大変な経済危機もあったポーランドですが2012年にはサーバス国際会議を開催しています。私は参加しませんでした。サーバス・ポーランドの会員の方々の勇気ある行動に改めて敬意を持ちました。

私は40年間の長い間サーバスの会員をしています。サーバス活動でしか得られない素晴らしい体験ができたことに今回も心から感謝しています。

(2) 受け入れ報告(サーバスではありませんが、特別寄稿です)

ホスト：M.S.

- トラベラー名：G.J.H.
- 国籍：オーストラリア
- 性別・年齢：男性 12歳
- 受入日：2018年1/14～1/24



オーストラリアのゴールドコーストに住む娘家族のことは支部ニュースに度々載せていただいていますので日豪の相違点など興味を持っていただけるのかと自負している私です。今回は孫・G.J.H.・12才が夏休みを利用して、2018年1/14～1/24に極寒の仙台にひとりでやってきました。

ほぼ毎年、娘家族は仙台に帰ってきていました。しかし孫がひとりでジェットスター航空機に乗ってゴールドコースト空港から仙台空港まで来たのは初めてのことでした。仙台の滞在は10日間と短かったですが、近くにある泉ヶ岳で連日大好きなスノーボードを満喫して帰国しました。

私の初めての海外旅行は家族4人のアメリカ旅行でした。今から33年前の私が40歳の時でした。その当時、アメリカに行くには札幌にあるアメリカ領事館でビザを発行してもらう必要がありました。旅行会社で企画されている団体旅行と違って、私たちのビザ発行には滞在先のサーバス・ホストに招待状を書いてもらう必要もありました。その他かなり面倒だったことを思い出します。

航空会社によって搭乗規則が違うのかもしれませんが12才になると保護者なしで一人飛行機に乗ることが出来ると孫は以前から知っていたようで、今年の2月で中学2

年生になります。ゴールドコーストに住む孫が海を越えて仙台の祖父母の家にひとりで来れるあたらしい時代になりました。

今回の経験は孫にとっても、娘夫婦にとっても、また私たち祖父母にとって大きな自信になったと思っています。

(3) 受け入れ報告

ホスト：N. T.

- トラベラー名： Mr. C.G.
- 国籍： オランダ
- 性別・年齢： 男・24歳
- 受入日：2017年10月7日(土)

福島市蓬萊公民館にて吹きや体験をする。いわゆるダーツであるが、日本のタイプのスポーツ吹き矢はオランダにはないとのことでした。日本の〇〇道といわれるのは「型に入って型から出る」と言われますが、C.G.君には気軽に (take it easy) にやってもらいました。

ご存知のように彼は今年(2017年)4月14日、15日2泊3日私の家に滞在して行きました。なんと彼はまたまた10月福島にアムステルダムから直行(関空経由)でHさん(前サーバス会員)と私の家に来たのです。これはまさに感激です。それほど福島がよかったのかと一。つまりC.G.君は半年に2回福島に来たのです。こういう体験は私の長いサーバス会員として初めてのことです。

震災の前の年(2010年)に私と畠さんは、オランダ・ベルギー・ドイツを10日間ほど旅行しました。その時、以前私宅にホームステイしたMs. L.さんを訪ねました。なんと彼女は、オランダ(アムステルダム)で日本専用の旅行会社「TAO Japan Specialist」を経営しているのです。こういう会社があるというのも驚きでした。C.G.君とWさんは彼女からの紹介でした。



上は中山さんから教わるC.G.君の様子。
左は実際に撃つてみている様子。



C.G.君は合気道を習っており、二級だそう。真ん中の写真はおそらく合気道の始祖？

C.G.君からのお礼の手紙 2017年7月7日（最初のステイの後に送ってきた手紙）

I have been studying the Japanese language. Now I can read ひらがな. カタカナ is still hard for me. I also have to learn what the translation is but I hope learn it fluently in the future. どもありがとう for the photos you sent.

You practice with a big group of Fukiya. They look like good people, great company and good opponents for you.

I'm honored that you spoke of me at the onsen hotel. It must be a very interesting speech you gave to them. If you have to give another speech about me or Netherlands and want a real Dutch man with you, please let me know in advance, maybe I can travel to Japan. I can fly very cheap by KLM (Loyal Dutch Airline). I'm not joking.

日本語訳

私は最近日本語を勉強しています。今はひらがなを読めます。カタカナはまだ難しいです。翻訳を学ばなければいけませんが、将来流暢に話せればいいと思います。送ってくださった写真、「どもありがとう」（自筆の日本語）

あなたは大きな吹き矢のグループで練習をしているのですね。彼らはとてもいい人たちで、よい仲間に見えました。あなたにとってもよい対戦相手の方ですね。

私は、あなたが私について温泉で話してくれたときにとても誇らしかったです。彼らに話したことは、とても面白かったことでしょうね。もしまた私はオランダについての話をしなければならなくなって、本物のオランダ人と一緒に来てほしいのなら、前もって教えてくださいね。もしかしたら日本に行けるかもしれません。KLM(オランダ航空)でとても安く旅行できるのです。冗談を言っているのではないですよ。(・・・)
*そしてこの言葉の通り、数ヵ月後にはまた福島を訪れ、中山さんとの再会を果たしているのです！嬉しい限りですね。

(4) 受け入れ報告

ホスト：N. T.

- トラベラー名：Mr. C.F.
- 国籍：デンマーク
- 性別・年齢：男性・21歳
- 受入日：2017年9月4、5、6日（2泊3日）
- 見学場所：二本松霞が城 岳温泉

21歳とは思えぬ外見と落ち着きぶり。量子物理学を専攻。きっかけは子供の頃からの宇宙への興味だそうです。(名古屋)大学の新学期が始まる前に東北旅行を実施。

両親は現在、ニカラグアに住んでいるそうです。

一緒に、露天風呂に入る。さかんに、日本の自然や文化を褒める。

(5) 初めての SERVAS トラベラー受け入れ経験

ホスト：C.M.・C.N.

■トラベラー名：Mrs. E.K. & Mr. A.K.

■国籍：Poland (ポーランド)

■受入日：2017年8月27、28、29日(2泊3日)

この日、私たちにとって初めてのゲストをお迎えすることになりました。サーバストラベラーを始め長いのですが、ゲストを迎えるのは初めてで、数日前から寝具を買いそろえたり、何をご馳走しようかと考えたりしていました。ところが、前日になっ



ても何時に着くのか連絡が来ません。本当にやってくるのか分からないまま当日を迎えます。しかし、連絡が取れないままだったので、私たちは彼らがこないものかと思っていました。しかし、2人は私たちが迎えに行った後に待ち合わせ場所に到着し、何時間も待っていたというのです！最終的に二人は仙台のMさんに連絡し、そこから私たちにつながりました。出会うまでにとっても長い時間待たせてしまったのですが、ついに会えたときは申し訳なさとお安堵感でいっぱいでした。理由は連絡の行き違い。A.K.さんは前日にメールをしたつもりが送られておらず、また、私たちも連絡がこないからキャンセルになったのだと思い、長時間待ち合わせ場所にいなかったのです。こういう経験を最初にできたことで、様々なことを学ぶことができました。彼らはベテランのサーバストラベラーで、これまでも色々な大変な経験もしてきたということで、ホストを始めたばかりの私たちにはアドバイスをくれたりしました。福島市の紹介地図の英語版を次のトラベラーのために家に置いておくべきだとか、日本人は連絡先の電話番号や自宅の住所をもっと公表してもいいのではないかと、ヨーロッパではもっと連絡が取りやすい、などと教えてもらいました。なるほど、と教訓を得て、後は二人に福島市での滞在期間を楽しんでもらうことに専念しました。

二人との初めての夕飯はタコ焼きパーティー。我が家のコタツで食べるときに、床に座ることに慣れておらず多少苦戦していました。食後はポーランドの御菓子の包み紙に書かれているポーランド語が読めるかどうか当てるクイズをしました。字面から発音が想像できず、難しかったです。こういう素朴な遊びがとても心に残っています。

A.K.さんはポーランドで日本語の先生をされており、日本語をお話するのも漢字を使って文書を書くのも得意です。日本とポーランドのつながりについても教えてくれました。また、E.K.さんは英語の先生で好奇心旺盛。洗濯ネットになぜ洗濯物を入れるの？の質問に、使わないと絡まってしまうから、と答えると、それって何か問題？と聞き返されてしまいました。こんな小さなことでも驚きと発見があるのだな、と面白くなって

しまいました。

翌日は近くの信夫山に登って大きなぞうりを見つけて興奮していたようでした。ラーメンやお寺、神社など、日本らしいものを堪能していたようでした。

あっという間の3日間でしたが、たくさんの発見をしてもらえたのではないかと思います。福島市の直後は北海道のサーバスホストに移動するというので、今回の経験を活かし、その前日に次のホストに私から電話をかけて最終確認をしました。このように日本人のホスト同士でも何かしらつながりを感じられるのも嬉しいことだと思います。今度は私たちがポーランドで2人を訪ねるのが楽しみでなりません。

最後に、A.K.さんが実際に日本語で書いた文章をご紹介します。漢字もご自分で書いていることに驚きです！滞在中にも、新しい言葉を聞くとすぐに日本語の辞書で調べていました。

『楽しいひとときをNとMのお宅で過ごさせて頂いて誠にどうもありがとうございました。おふたりのお陰で日本の伝統的なもてなしを経験し、いろいろを知ることができました。都合が良かったら是非一生一度ポーランドにお出で下さい。会える日をお待ちしております。』



(6) 我が家にも「あの人」がやってくる！

ホスト：C.M.・C.N.

- トラベラー名：C.F.
- 国籍：デンマーク
- 性別・年齢： 男性・21歳
- 受入日：2017年9月13、14、15日(2泊3日)

C.F.君をホストする数日前、福島のNさん宅に泊まっていた彼に会いに行きました。Nさん宅で夕食をいただきながら一緒にお話ししたら、我が家にもステイしたいと連絡をくれました。既にあっている仲なのに、わざわざ丁寧にLOIを添付したメールでステイの申し込みを受けました。好青年であることがここからも分かります。



さて、私たちの家に来てもらった時は秋だったので、ちょうど芋煮の時期。私の地元山形の味を体験してもらおうと、一緒に芋煮を作りました。翌日は伊達市の霊山（りょうぜん）までバスで移動し、一人でトレッキングを楽しんでいました。写真は、霊山で撮ったセルフイー（自撮り写真）です。彼は帰りのバスを待っていたものの、暗闇で彼が見えなかったのかバスは無情にも通り過ぎたため、私が迎えに行きました。こんなに素敵な山なのに、この日トレッキングしていた人は彼一人しかおらず、野生動物にしか会わなかったと言っていました。平日なので人がいなかったのかもしれませんが、日本人も外国人トラベラーも是非もっと福島の方に登ってもらいたいですね。最終日は吾妻小富士を見に行き、大変満足しているようでした。



日本の大学でも留学生活が始まってからも時々連絡を取り合い、ポストカードももらいました。帰国前にまた福島に来てほしいです。と、そう思っていたら、日本での留学を終え、すでに帰国していたそうです。日本にいた半年間で日常会話ができるくらいになり、日本食も少し作れるようになったそうです。日本で出会ったいろいろな国の人からたくさんのお話を学ぶことができ、日本での生活はとて素晴らしい経験になったとメールをもらいました。いつかまた日本に来てほしいです。

5 編集後記

支部ニュース編集担当 **C.N.**

2018年になって初めての東北支部ニュースとなりました。前回は10月に発行いたしましたから5か月ぶりとなります。諸事情により発行が遅れ、支部長からの新年のご挨拶をこの時期にご紹介することになってしまい申し訳ございませんでした。今年も国際交流を楽しみつつ、サーバス東北の方々との交流を体験させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、私からイベントのご案内を差し上げたいと思います。私が青年海外協力隊でマレーシアから帰国してから、同じくモロッコで青年海外協力隊経験者の友人と一緒に、イスラム教に関する理解を深めるイベントを行おう、という話になりました。日本では、ムスリム（イスラム教徒）に出会う機会が限られていることから、残念ながら一線を引いてしまっているのではないかと思います。しかし、マレーシアなどでムスリムの人たちと接する機会が多いと、彼らの優しさや宗教観を理解するチャンスがたくさんありました。日本でも、東北でも、ムスリムの理解を深め、たくさんのムスリムトラベラーに

東北旅行を楽しんでもらうためにも、まずは私たち日本人が気軽にムスリムの方たちと交流する場が必要だと思ったのです。

そこで立ち上げたグループが **Tigmi** (ティグミ) といい、ベルベル語で「家」を表します。このイベントに参加してくれた人皆が家族のように仲良くなってほしいという願いが込められています。**Tigmi** では月に一回、ムスリムと作るハラール料理パーティーを実施しています。ハラール料理とは、ムスリムの人ができる食材と調理方法で作られた料理のことです。毎回様々な国の料理をムスリムとともに作って食べています。皆さまもご都合が合いましたら是非お越しください。ちなみに、前号でご紹介いたしました、宮城県の T さんと福島県の N さんたちと実施した言語交流会で仲良くなったアメリカ人の K さんも **Tigmi** 二回目のムスリム料理パーティーに参加してくれました。外国人のお友達がいたしたら、ムスリムでなくても参加可能ですので、どうぞお誘い合わせのうえご参加ください。

下の写真は 2 月のムスリム料理パーティーで作った物の一部です。トルコのミートボールとサラダ、インドネシアのガドガド (サラダ)、オポールアヤム (チキンカレーのようなもの)、ヨルダンのピスタチオクッキーなどを作りました。次回もお楽しみに！

次回開催日：3 月 24 日 (土)

場所：仙台市青葉区中央市民センターの調理室

時間：14:00 調理開始、17:00 前後会食、19:00 解散

会費：1200 円程度 (日本人)

詳細は **facebook** で **Tigmi** のページを探していただくか、C.N.のサーバスメールアドレスまでお問い合わせください。

